

## ポスト・あいウォークを考える

小森 星児（復興塾塾長）<komori@kobe-yamate.ac.jp>

今年、私たちがあいウォークを中止したことについて、塾の内外からさまざまな感想や疑問が寄せられた。私自身も準備が大変だとこぼしながら恒例のウォークを楽しんでいたもので、この正月はなにか物足りなさを覚えたのも事実である。

マスコミでも、被災地で震災の記憶が希薄になった兆候のひとつという視点で報道された。確かに中止になったイベントを列挙してみると、こうした見方にも一理ある。しかし、新たに始まった企画や、全国的あるいはグローバルに拡大した活動を見落とすのは公平ではない。役割を終えたイベントが席を譲るのは当然ではないか。

あいウォークに参加した人びと、協力した人びとにはさまざまな思いがある。慰霊のため、まちおこしのため、健康維持のため、家族の絆のため、その他数え上げればきりが無い。理由はともあれ、募金して歩けば気持ち晴れる。私たちは、参加者のこうした動機を尊重し、義務感や追悼色をなるべく目立たせないように工夫してきた積りである。この趣旨からみて、県主催のメモリアルウォークと競合するとは思っていない。

しかし、募金イベントとして考えると、あいウォークは大きな弱点を克服できなかった。端的に言えば、目的である募金総額が参加人数掛ける1千円という算式をどうしても越えられなかったことである。物理的に参加者数は最大3千人と見込まれるので、募金総額の上限は300万円という

ことになる。一方、経費は参加者数や一人当たり募金額に関係なく250万円程度は必要だから、募金イベントとしては極めて効率が悪い。

もともとこの企画はアメリカのAIDS WALKを見習った募金イベントであり、復興塾が実行委員会事務局を組織したのは社会実験のひとつと考えたからである。社会的な意義があるものの引き受け手のないイベントを支援する、これが復興塾の重要な役割なので、経費や労力を考えれば相当な持ち出しであったにもかかわらず、3回のイベントを大きな問題なしに終えることができた。

しかし、塾としてはこれ以上ウォークを継続して得るものは少ないという段階に達したのではないか。私たちの組織は機動性と瞬発力に富んでいるが、持続するのは苦手である。ある程度目処がたったイベントは専門の組織に運営を委ね、塾は新しい課題に取り組むのが本来の姿だと思う。

もちろん、NPO活動を支援する手段として外部からの資金獲得が重要であることは改めて強調するまでもない。ポスト・あいウォークの展望が開けないとすれば、それこそが真の問題ではないか。

（参照）神戸新聞 HP([www.kobe-np.co.jp/](http://www.kobe-np.co.jp/))

2002年1月13日付『変わる「1・17」週末に追悼行事、活動に区切りも』等

### コラム 言いたい放題

やってくれました。さすが、タイガース。毎年、毎年、話題に事欠きません。熱血監督、大歓迎です。タイガースを「戦う集団」にしてくれ。そう、気がするじゃありませんか。「戦う男」「熱い男」「男が惚れる男」などなど、これほど形容詞がついて、また似合う人もめずらしいが、しかしとってしまふのは私だけでしょうか。企業ならトップのヘッドハンティングは、ま、よくある話（とくに米国）です。競争社会です。この点で、野球界というのは不思議な構造があって、いわば運命共同体なのです。いくら引退したといっても、そのチームの象徴のような監督（野村さんはそうではなかった）を引き抜くとはいかがなもので、せめて一年ぐらいは待てなかつたのか、と思ってしまうわけです。中日ファンはたまらんやろなと思いつつ、それでもタイガースをもちろん応援するのですが、ところで「戦うNPO」「熱いNPO」「NPOが惚れるNPO」なんていうのはどうしたらなるんでしょうか。監督を代える？ いやいや、メンバーの総入れ替えか、やっぱり、

M生

# 勉強会「神戸まちづくり塾・2001」の記録

この講座は、神戸まちづくり研究所の勉強会として、県民ネットの助成金を得て開催した。7年目を迎えた震災復興まちづくりを、神戸復興塾メンバーを中心とする渦中の人々に多様な切り口で語ってもらいディスカッションをおこなった。

復興10年というパースペクティブの中で見えにくくなった現状の課題と今後の地域社会の方向性を提示することをめくろんだ。

以下に、実施した6回の講座のタイトル、発題者、レジュメ、議論の要約を紹介する。

## 第1回 7月12日(木) 12名参加

### 災害復興公営住宅のコミュニティ支援

講師：石東直子氏(石東・都市環境研究所)

- ・ 災害復興公営住宅の現状
  - 超高齢化、単身世帯化、低所得層 -
- ・ 居住者のとまどい
  - 70歳代、80歳代で初めて新しい地で、鉄筋コンクリートのアパート住まいを体験 -
- ・ 居住サポート
  - システムの確立の必要性？

4月から始められた「復興住宅コミュニティ支援研究会」(事務局・神戸まちづくり研究所)での議論を紹介しながら、従来の公営住宅管理の考え方そのものの見直しの必要性和コミュニティ支援の仕組みが不可欠であることが確認された。

## 第2回 8月9日(木) 14名参加

### まちづくり協議会連絡会の今後

講師：中島克元氏(神戸まちづくり協議会連絡会)

- ・ 神戸まちづくり協議会連絡会のこれまで
  - H8.7.25に38地域が集まり結成 -
- ・ 神戸まちづくり協議会連絡会の現状
  - NPO法人格をとり恒久的なまちづくりへ -
- ・ 神戸まちづくり協議会連絡会の今後
  - 空き地に住宅再建をやっていく？

復興事業地域のまちづくり協議会が、事業の終焉とともに目的を失い、活動を休止しつつある中で、新しい目標を見つけることが出来るのかがテーマであった。連絡協議会のNPO法人化はその一つの方向であるが、現実には個々のまち協の低迷への歯止めは困難であり、連絡協議会は、行政への支援継続を訴える圧力団体となりつつある。

## 第3回 9月13日(木) 22名参加

### NPOと行政・NPOと地縁組織

講師：相川康子氏(神戸新聞社)

- ・ NPOの意義/協働のルール
- ・ 兵庫県のNPO関連施策<条例>
- ・ 兵庫県のNPO関連施策<拠点・その他>
- ・ 神戸市の「協働のフレームワーク検討会」
- ・ 全国的な課題と動向

神戸市がNPOとの協働のフレームワークについての研究を始めた。兵庫県は「参画と協働の条例」制定に向けて動き始めた。それらの動向を分析するとともに、他地区の事例も紹介しながら「行政とNPO」の協働の在り方について議論した。

## 第4回 10月11日(木) 12名参加

### 外国人と共生するまちづくり

講師：吉富志津代氏(FACIL)

- ・ FACILが設立されるまで
  - 「多文化、多民族共生社会」の実現を目標に活動 -
- ・ FACILの業務
  - 翻訳・通訳、多言語企画のコーディネート -
- ・ ワールドキッズ・コミュニティの紹介

国際都市といわれる神戸において震災復興は外国人に何をもたらしただのか。震災を契機に生まれた多彩なNPOの活動から、新しい共生社会の在り方を議論した。

## 第5回 11月8日(木) 15名参加

### 地域エンパワメントとしてのまちづくり

講師：宮西悠司氏(神戸地域問題研究所)

- ・ まちづくりは地域力の向上
  - ・ 地域力とは
    - ・ 継続的なまちづくりによるCapacity-Building
- まちづくりの究極の目的は地域力の向上であると主張する宮西氏を迎え真野地区のまちづくりのきっかけと社会状況、まちづくりの中でどのように住民をエンパワーしてきたかを語ってもらった。

## 第6回 11月29日(木) 24名参加

### まとめの大討論会

講師：中島氏、相川氏、吉富氏、宮西氏

森栗茂一氏にコーディネーターをお願いした。

石東氏をのぞく全講師が参加し、復興7年目の現状について議論をした。論点が多岐にわたりまとめは断念したが、まちづくり研究所が何らかの形で行政・市民双方に対して提言をしていくことの重要性は認識されたように思う

野崎隆一<VZD07604@nifty.ne.jp>

# 活 動 の 記 録

2001年9月29日

## 幻想協奏三部曲 市民サミット・ワークショップ

2001年9月29日、深夜までの「狂騒」曲。あれは何だったのか？

某県知事から「空虚な（復興）セレモニー」と皮肉られた「神戸 21 世紀復興記念事業」をしめくくる「市民サミット in 神戸」が、神戸まちづくり研究所のある生涯学習支援センター「コムスタこうべ」で開かれた。

某知事の評論の当否はともかく、「神戸 21 世紀復興記念事業」はさまざまな市民参加による「する」「見る」「考える」の取り組みとなり、「希望の灯り」「感謝の手紙」「旧移民センターでの芸術ギャラリー」「空地での大花畑」などが行われた。その市民活動自体には重要な意味がある。ただ、さまざまな NPO の理解を得られたかどうか。高齢化のなかで動きのとりにくい地縁団体との協働がなされたかどうか。問題点を積み残したまま 9 月 29 日を迎えた。ワークショップの事務局を務めた本研究所の一員として反省すべき点がなくはない。



震災時にボランティアとして来られた各地の方々の熱い思いと、地域活動を模索する神戸側市民の意識とには最初からズレがあった。ワークショップはこうした人々を集めて、複数計画された。テーマの抽象的なワークショップや、突然、延期されたり、統廃合されたり、はたまたギターが乱入するという異例のワークショップとなった。予想通りとい



うか、予想以上に「狂騒」となった。それでも、何とか形になったのは、辻さん・松原さんの臨機応変の活躍と、森栗ワークショップに参加いただいたまち研関係者、おやこ劇場関係者の賜物である。

まあ、重苦しいワークショップより、エエか？  
にもかかわらず、

事前準備で葺合地区を詳細に調べることが出来たし、森崎近畿タクシー社長、人形の内田社長など市民活動に理解ある地域企業との連携ができたことは収穫であった。ただ、市長や区長が自動車で運動場へ乗り付け、あいさつだけをしてそそくさと帰るようでは、「市民との協働のサミット」をうたうのは少しおこがましい。

むしろ、一過性の行事ではなく、各 NPO が日常から地域活動団体と連携する必要があり、その上に議論を積み重ねてこそ、市民サミットのワークショップであったはずである。その議論を保証する「予算組み」と「時間組み」をもって臨めれば、よかったと思う。楽団員が普段から地域とのアンサンブルに精通しており、彼らに練習場と一定の待遇を確保しておれば、さらには本番でコンサートマスターが最後まで舞台に残っておれば、メンデルスゾーンのような協奏が可能ではなかったろうか。

森栗茂一<tawakuri@dream.ocn.ne.jp>

### ボランティア国際年 市民サミット in 神戸

2001 ボランティア国際年、神戸では震災時のご支援に感謝しての、神戸 21 世紀復興記念事業「KOBE 2001 ひと・まち・みらい」が開催された。その中で、市民・ボランティアと行政の新たな協働、また、「感謝の手紙」「希望の灯り全国リレー」などの新たなネットワークが生まれた。また、震災を背景に、市民ひとり一人のまちづくり意識が「自律と連帯」へと大きく変化すなか、NPO など新たな公共・公益サービスの担い手も登場してきた。事業の終了にあわせ、もう一度集い、震災を振り返りながら、神戸から何を学び、神戸が何を学んだのか、そして 21 世紀の市民社会について語り合い、また、再会や新たな出会いの喜びを分かち合える行事にしたい。（パンフレットより抜粋）

歓迎イベント、ワークショップ、展示、全国料理自慢広場、模擬避難所、「ありがとう」竹筒、炊き出し、市民サミット宣言などを行った。神戸まちづくり研究所は、ワークショップ事務局として関わった。

# NPO による神戸市 IT 講習会

政府の施策を受け、神戸市では昨年 6 月（6 月以前にも一部実施）から、「高齢者をはじめ、ほとんどパソコンにふれたことのない方に、パソコンやインターネットに親しんでいただき、楽しさを実感していただくため」に、IT 講習会を始めた。各区の会場や、夏休みには中学校・高校も使用し、4 万人を対象とした講習会である。

神戸まちづくり研究所が入居しているコムスタこうべ（神戸市生涯学習支援センター）にも 1 教室設置され、NPO を支援するということで神戸まちづくり研究所が委託を受けた。NPO への中間支援事業として各地の NPO に呼びかけ、研究所以外に以下の 8 団体、

NPO ライフライブ  
ゲイツぐらくネットワーク  
プラザ 5 運営委員会  
ふれあい電子工房  
神戸を楽しくする会  
東灘地域・助け合いネットワーク  
兵庫シルバー企業組合  
兵庫県健康生きがいづくり協議会

合計 9 団体でスタートした。

事前の準備として、団体ごとに教材を分担し実際の講習会形式での予行演習を、研修を兼ね行うなど、責任を持って運営できるよう取り組んだ。

ハード面で最初に神戸市が用意したものは、パソコン・プリンター・インターネット接続環境・テキストのみであった。インストラクターの要望を聞き、ホワイトボードとワイヤレスマイクは交渉の結果確保できたが、プロジェクターは自前で用意しなければならなかった。一講座 20 名定員、インストラクター 1 名、アシスタント 2 名の 3 名体制では、プロジェクターなり OHP 無しでは十分な講習はできず、想定していない支出となったが受講者にとって非常に効果的であった。



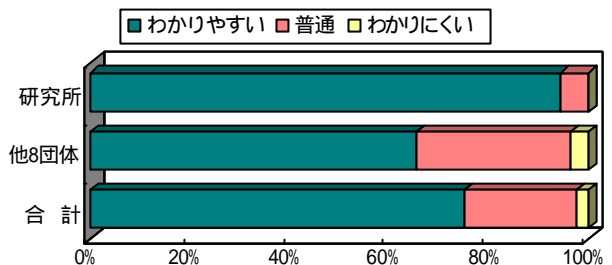
講義中の松井インストラクター

10 ヶ月の間に、パソコンが起動しない、インターネットに接続できない、ハードディスクの不良などのトラブルが発生したが、同じ会館内に、平日のみであるが研究所の担当者が常駐していたため、迅速に対応できた。

講習最終日に受講者へ神戸市作成のアンケートをお願いした。講習内容についての受講者の評価は、以下の通り(未記入項目は省いている)であった。

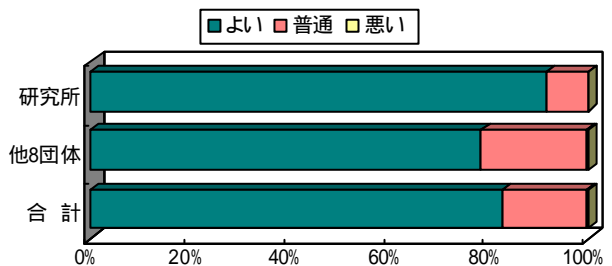
## インストラクターの説明への評価

	わかりやすい	普通	わかりにくい
研究所	94.4%	5.6%	0.0%
他8団体	65.3%	31.0%	3.7%
合計	74.9%	22.6%	2.5%



## アシスタントの対応への評価

	よい	普通	悪い
研究所	91.4%	8.6%	0.0%
他8団体	78.4%	21.1%	0.5%
合計	82.7%	17.0%	0.3%



神戸まちづくり研究所のメンバーの評価は、松井インストラクターを中心として努力していただいた結果である。

10 ヶ月間の長丁場の講習会であったが 3 月で終了した。最後に、共に IT 講習会を成功させた NPO の皆さん、お疲れ様でした。

最後に、2001 年度財政は IT 講習会事務手数料にある程度頼っていた面がある。2002 年度以降は、堅実な財政基盤を築いていく必要があるだろう。

まち研事務局(川村)<LET07723@nifty.ne.jp>



# とことん知ろう！まちづくり・2001

この講座は、県民ネットの助成金を得て企画開催した。住民が主体となり持続的なまちづくり活動を行っている地区を訪問し、まちづくりの担い手の講義と地区を歩くフィールドワークを行い、実地の工夫を学ぶことを目的としている。また、対象地域間の交流を深めることもねらいの一つであった。

「まちづくり」の専門家として学びたい人、居住地で活動したい人を対象とし、以下の3地区6回(1地区でフィールドワーク1日、講義1日)の講座である。

## 第1回 10月28日(日) 5名参加

### 松本地区を歩く / 辻信一氏

松本地区の地理説明の後、西公園予定地 松本通 6 5 4 3 東公園予定地 寺 病院前 大井通 まちづくり協議会事務所と歩いた。



せせらぎの流れるまちづくり

## 第2回 11月1日(木) 12名参加

### 松本地区の担い手たちに聞く / 中島克元氏

松本地区まちづくり活動についての講義  
・松本地区の概要・松本地区まちづくり協議会・せせらぎ構想・公園通り(コミュニティ道路)・市への要望

## 第3回 11月11日(日) 21名参加

### 住吉浜手地区を歩く / 岡部龍二氏

住吉浜手地区の地理説明の後、六甲ライナー 魚崎南駅 菊正資料館 酒蔵の道 国冠マンション  
2丁目密集地区 呉田会館 阪神住吉駅 宮町5 南町5 渋滞交差点 白鶴酒造館 宮町4 御旅所 御旅会館と歩いた。



埋立地の工場群(魚崎南駅より眺める)

## 第4回 11月14日(水) 16名参加

### 住吉浜手地区の担い手たちに聞く / 堀口裕司氏

住吉浜手まちづくりの会の活動経過と課題  
・公害反対運動からのスタート・2つの震災(当日と翌日)・自治会組織(地区協議会)との対立・アンケート・イベント開催・花と緑作戦・自治会との関係改善

## 第5回 11月25日(日) 23名参加

### 御蔵菅原地区を歩く / 竹内千恵子氏

御蔵菅原地区の概要説明の後、みくら 5 旧菅原市場 市住第2住宅 大崎工作所 御蔵通 8 御蔵北公園と歩いた。途中に空地が多数見受けられた。



更地が多数残る町並み

## 第6回 11月28日(水) 21名参加

### 御蔵菅原地区の担い手たちに聞く / 宮定章氏

・震災での御蔵菅原地区の被害状況・継続したイベントの開催で人を呼ぶ・人を呼び戻す施策を

1~2回目の松本地区は、震災後の都市計画決定を受けまちづくり協議会を結成した。せせらぎや2カ所の公園を核にしてのまちづくりは参考になる。

3~4回目の住吉浜手地区は、公害反対運動からスタートしているが、震災時の地区協議会の動きに対して、イベントの開催や花と緑作戦などを行い住民本位の地域づくりを展開している。

5~6回目の御蔵菅原地区は、もとの住民が2割しか帰って来れず、中小の工場も移転したままの中、新たな転入者と共に地域の活性化を図っている。

松本地区は参加者が少なく残念であったが、住吉浜手地区と御蔵菅原地区は参加しあい、地域同士の交流の場ともなった。

今後も、まちづくりの経験を学びあい、地域間の交流を深めるためにも、このような企画を継続し実施していく必要を実感している。

まち研事務局(川村)<LET07723@nifty.ne.jp>

# 神戸まちづくり研究所・神戸復興塾活動記録(2001年7月～2002年5月)

2001 年

- 7/24 「NPO と神戸市の協働研究会」第 6 回世話人会
- 8/ 2 第 5 回復興住宅・コミュニティ支援研究会
  - 7 「NPO と神戸市の協働研究会」第 2 回公開ワークショップ
  - 9 第 2 回神戸まちづくり塾「まちづくり協議会連絡会の今後」中島克元講師
  - 18 市民社会推進機構 CAS 発足
- 28 市民サミット in 神戸第 1 回実行委員会
- 29 名古屋市立東港中学校教諭来訪(修学旅行の検討)
- 9/ 7 「NPO と神戸市の協働研究会」第 7 回世話人会  
**神戸復興塾・神戸まちづくり研究所合同委員会**
  - 11 第 6 回復興住宅・コミュニティ支援研究会
  - 13 第 3 回神戸まちづくり塾「NPO と行政、NPO と地縁組織」相川康子講師
  - 14 市民サミット in 神戸第 2 回実行委員会
  - 29～30 市民サミット in 神戸(神戸まちづくり研究所でワークショップを担当)
- 10/ 4 第 7 回復興住宅・コミュニティ支援研究会
  - 10 特定非営利活動法人市民芸術創造協会(姫路)事務局長来訪
  - 11 第 4 回神戸まちづくり塾「外国人と共生するまちづくり」吉富志津代講師
  - 16 こうべ i (あい)ウォーク実行委員会
  - 19 どちらの宮本・吾妻ワークショップ
  - 23 「NPO と神戸市の協働研究会」第 8 回世話人会
  - 24 地域活動推進講座「コミュニケーションセミナー」(神戸復興塾)  
 第 8 回復興住宅・コミュニティ支援研究会
  - 28 第 1 回とことん知ろうまちづくり「松本地区を歩く」辻信一講師
  - 31 地域活動推進講座「コミュニケーションセミナー」(神戸復興塾)
- 11/ 1 第 2 回とことん知ろうまちづくり「松本地区の担い手たちに聞く」中島克元講師
  - 7 地域活動推進講座「コミュニケーションセミナー」(神戸復興塾)
  - 8 第 5 回神戸まちづくり塾「地域エンパワメントとしてのまちづくり」宮西悠司講師  
 「NPO と神戸市の協働研究会」公開フォーラム事前打ち合わせ
  - 11 第 3 回とことん知ろうまちづくり「住吉浜手地区を歩く」堀口裕司講師
  - 14 第 4 回とことん知ろうまちづくり「住吉浜手地区の担い手たちに聞く」岡部隆二講師  
 地域活動推進講座「コミュニケーションセミナー」(神戸復興塾)
  - 16 復興住宅・コミュニティ応援団新在家南コミュニティ茶店オープン
  - 20 「NPO と神戸市の協働研究会」第 3 回公開フォーラム
  - 21 地域活動推進講座「コミュニケーションセミナー」(神戸復興塾)
  - 25 第 5 回とことん知ろうまちづくり「御蔵菅原地区を歩く」竹内千恵子講師
  - 28 第 6 回とことん知ろうまちづくり「御蔵菅原地区の担い手たちに聞く」宮定章講師  
 地域活動推進講座「コミュニケーションセミナー」(神戸復興塾)
  - 29 第 6 回神戸まちづくり塾「まとめの大讨论会」講師 & 森栗茂コメンテーター
  - 30 金沢神戸市会議員ボランティア団体設立希望者と来訪
- 12/ 1 インターネットテレビ説明会
  - 6 きょうと・みんなの・ほっと・ステーション事務局来訪
  - 11 「NPO と神戸市の協働研究会」第 9 回世話人会
  - 14 第 9 回復興住宅・コミュニティ支援研究会
  - 17 東京都豊島区区会議員団来訪

12/27 神戸まちづくり研究所事務局会議

2002 年

- 1/10 神戸復興塾・神戸まちづくり研究所新年会
  - 13 「被災地実態についての学生発表会」にて復興塾として記念品進呈
  - 17 海外災害市民援助センター(CODE)設立  
 「竹下景子さんの朗読とコンサート」にて復興塾として記念品進呈
  - 18～20 ボランタリーミニウォーク
  - 22 第 10 回復興住宅・コミュニティ支援研究会
  - 23 北海道北見地区農業青年研修受け入れ
  - 25 JICA 国際防災研修会(講師として野崎事務局長参加)
  - 28 CODE セミナー(3/11 まで)
  - 30 兵庫県中小企業家同友会事務局長来訪
  - 31 「NPO と神戸市の協働研究会」公開フォーラム事前打ち合わせ
- 2/ 5 ひょうご市民活動協議会(HYOGON)設立(代表/野崎隆一)
  - 8 阪神白地連絡会「協働・参画条例」(小林理事コーディネート)
  - 12 「NPO と神戸市の協働研究会」第 4 回公開フォーラム
  - 14 岡山県土木部都市局建築指導課来訪
  - 18 西東京市市会議員来訪
  - 19 名古屋市立日比野中学校修学旅行下見受け入れ
  - 20 民主党神戸市会議員団来訪
  - 26 名古屋市立城山中学校修学旅行下見受け入れ  
 津市市民活動交流会講演会講師依頼打ち合わせ
- 3/ 5 「NPO と神戸市の協働研究会」第 10 回世話人会
  - 6 復興住宅・コミュニティ応援団新在家南コミュニティ茶店再オープン  
 ラジオ関西「おむすび ほっかほか訪問」企画委員会
  - 14 東京リサーチインターナショナル来訪  
 札幌市役所企画調整局来訪
  - 18 特定非営利活動法人 NPO サポートセンター来訪
  - 20 シアトルからの訪問団受け入れ(交流会「いさご」)
  - 23 HYOGON お披露目ワークショップ「地域社会をつくる」
  - 24 津地区まちづくり交流会(講師として小森塾長参加)
  - 26 第 11 回復興住宅・コミュニティ支援研究会
  - 29 ラジオ関西「おむすび ほっかほか訪問」企画委員会
- 4/ 1 小森理事長「ひょうごボランタリー活動プラザ」所長に就任
  - 5 阪神白地連絡会「団地再生」(野崎事務局長コーディネート)
  - 16 「NPO と神戸市の協働研究会」第 11 回世話人会
  - 22 ラジオ関西「おむすび ほっかほか訪問」企画委員会
  - 23 第 12 回復興住宅・コミュニティ支援研究会
  - 30 神戸復興塾・神戸まちづくり研究所事務局会議
- 5/14 神戸まちづくり研究所理事会
  - 20 復興住宅・コミュニティ支援研究会打ち合わせ会議
  - 21 名古屋市立日比野中学校修学旅行受け入れ  
 「NPO と神戸市の協働研究会」第 4 回公開フォーラム
  - 23 神戸まちづくり研究所定期総会  
 神戸復興塾定期総会

(太字は、神戸復興塾・神戸まちづくり研究所主催および対応)

# コレクティブオフィスの紹介

「特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所」は、神戸市が旧吾妻小学校を改装して開設した「市民活動総合支援拠点」に入居し、「コレクティブオフィス」を運営しています。「コレクティブオフィス」とは、これから非営利の市民活動を始める人、あるいは既に活動を始めているがまだ軌道に乗らない個人やグループに、拠点となる場所と必要な設備を提供する仕組みです。さらに自立的な活動をサポートするメニューも提供します。「スタジオ・カタリスト」、「村上環境住宅研究所」、「プランナーズネットワーク神戸」に加え、今年に入り、「空飛ぶ車椅子」、「プロジェクト結ぶ」の2団体が入居されたのでご紹介します。

## 『空飛ぶ車椅子』さんの紹介（2002年1月入居）

### 「空飛ぶ車椅子」について

私たちは、車椅子を利用されている方に対して、神戸市内を中心にバリアフリー情報の提供、介助による支援を行うことで、自由に観光や買い物、食事など自由に楽しめる社会の実現を目標にしています。

現在、コミュニティサポート神戸様、木口財団様から助成を受けており、「2002FIFA ワールドカップ」にあわせた活動を当面の重点活動に位置づけています。

### 「空飛ぶ車椅子」重点の活動目的

2002年「ワールドカップ」で盛り上がっている神戸の街には、世界の国から日本の各地から多くのサッカーファン、観光客が訪れるでしょう。その時に多くの車椅子利用者の方にも神戸を訪れても

らいたいのですが、神戸のバリアフリー情報の実態は、情報も含め決して十分ではありません。神戸が世界に恥ずかしくない「バリアフリー情報」を提供し、必要とする人々への介助ができ、多くの車椅子利の方に対して神戸を楽しんでいただく事ができれば、とても嬉しい事です。

観光サポート「空飛ぶ車椅子」はワールドカップ神戸会場である「神戸 WING スタジアム」周辺から、神戸を代表する観光地、ショッピングエリアのバリアフリー情報の実際を調査し、情報を提供します。また、必要な介助ができる介助者（アテンダント）の養成を行い、介助の要望にも応えられるように準備をすすめていきたいと思っています。

（空飛ぶ車椅子） 寺田貴則

## 『プロジェクト結ぶ』さんの紹介（2002年3月入居）

### 「プロジェクト結ぶ」活動理念

当団体は西宮市にある有限会社コラボねっと（代表取締役社長 石井布紀子）の社会貢献事業を担う非営利活動団体です。

社名を[コラボレーション][ねっとわーく]から造語したように「水平的協働により新しい価値を社会に創造し結び合うこと」を理念としています。

### 「プロジェクト結ぶ」活動目的

企業の海外技術移転など厳しい経済環境から雇用情勢がさらに深刻化しています。

近畿地方の完全失業率も6%台に達しておりその現実の裏に難就労者が増加の一途をたどっていることは周知のとおりです。私たちはこの難就労者の就労支援を事業目的にしています。

いわば社会的ワークシェアリング推進を通じての雇用および就労機会創出支援を目的にしています。

### 「プロジェクト結ぶ」活動内容

今、障害者・リストラで退職を余儀なくされた中年層・高齢者・引きこもりなど就労が困難な方々に「プロジェクト結ぶ」が獲得してきた各企業や団体からの受注業務を生産および役務サービスと

いう形で提供していきます。

また作業所に就労している障害者の方々の自立支援のため新規商品導入提案や既存生産品販路拡大のお手伝いもしています。

### 「プロジェクト結ぶ」の面白情報

- ・ 企業の方、難就労者とコラボレーションしませんか？  
各企業よりの単純作業外注化情報を求めています。

お問い合わせは <tommyk@h5.dion.ne.jp> 小林までご連絡ください。

- ・ 人気絶賛！「結ぶクリーン」  
障害者の皆さんが「ゲー・チョコキ・パー」のかわいい刺繍を入れたぞうきんです。  
幼稚園・学校での福祉啓蒙に、交通安全キャンペーンなどに大好評！  
販売による利益は全額基金積み立てに回り障害者支援活動に使われます。

（大）140 円、（小）100 円 注文単位は 100 枚以上  
お問い合わせは <hisayotnk@hotmail.com> 田中までご連絡ください。

「プロジェクト結ぶ」 石井布紀子

## 復興住宅・コミュニティ支援研究会

被災者復興支援会議パート の住宅部会では、現地でサポートされている方々に集まっていたいただき、井戸端フォーラムをやってきた。この研究会は、支援会議パート は2001年3月で終わったが、フォーラムは継続させようとメンバーに呼びかけ発足した。神戸まちづくり研究所が事務局業務を担っている。今までに以下の10回の研究会を行った。

**2001/4/4** 研究会開催に至る経過報告と今後の進め方について

**5/14** 『社協の地域福祉活動の取り組み動向について』(小林茂氏)・『コミュニティハイツ事業とグループハウス民間整備の可能性』(池田啓一氏)・『アメリカのコミュニティ開発法人 CDC の活動とそれを支える制度・コミュニティ支援』(渡辺民代氏)の報告と討議

**6/8** 『復興公営住宅のコレクティブハウジング「ふれあい住宅」の居住サポートの状況』(石東直子氏)・『復興公営住宅の居住サポートの現状と課題』(黒田裕子氏)・『高齢者の居住安定確保法「グループリビング支援事業」NPO FUSION 長池 住宅管理支援事業と住まいづくり事業』その他2~3の解説と紹介』(石東直子氏)の報告と討議  
**7/5** 『高齢化が進む市営住宅の管理上の課題』(大山義郎氏)・『神戸方式のLSA業務』(重野妙実氏)の報告と討議

**8/2** 『復興公営住宅の空室を活用したディサービス事業』(榎本まな氏)・『東灘復興公営住宅自治会交流会の活動紹介』(山本靖之氏)・『新長田まちづくり株式会社の居住サポート』(高原政玉氏)の報告と討議

**9/11** 『大阪府の「ふれあいリビング」「グループホーム」』(石東直子氏)の報告後、今まで5回の会合での情報収集をもとに意見交流会

**10/4** 復興住宅・コミュニティ再生事業のための中間支援組織の立ち上げについて討議し、復興住宅・コミュニティ応援団を設立。モデル地区候補として、新在家南の復興公営住宅の視察を決定。

**10/24** 新在家南地区復興公営住宅集会所にて、「コミュニティ茶店」をオープンするための具体的事項を討議。

**12/14** 「コミュニティ茶店・新在家南」の事業状況の中間報告

**2002/1/22** 「コミュニティ茶店・新在家南」の今後の展開の話し合い。復興住宅・コミュニティ支

援研究会は2ヶ月に1回のペースで事例や現場の実態をもとに研究や議論をする。復興住宅・コミュニティ応援団は、社会実験としての茶店を展開しながらコミュニティサポートの組織をつくっていく。

## コミュニティ茶店・新在家南

「報告 きんもくせい」02年2月号 No.35/ 社会実験「コミュニティ茶店・新在家南」の報告と再オープン/石東直子(石東・都市環境研究室)より抜粋・要約

第7回研究会にて立ち上げた「復興住宅・コミュニティ応援団」は、復興住宅のコミュニティ再生のための社会実験として「コミュニティ茶店・新在家南(3号棟)」を、昨年11月半ばから1ヶ月間(月・水・金の10:30~15:30)開店した。閉じこもりの方が隣人と触れ合える場づくり、居住者が生きがいとして関われる場づくりを目的としている。



新在家南住宅は、5棟658戸の高層住宅団地で、団地内に生活利便施設は無く、近くに食料品店もない「陸の孤島」であり、一人暮らしの高齢者が多い。

期間限定の実験だったが、後半は30~50名の来客で繁盛した。居住者からは、「日常的に気楽に寄れる場」「孤独からの脱出」「外に出てみようという気力の蘇生」「セミフォーマルな安らぎの空間」「同好の隣人を発見し共に時を過ごす場」としての評価の声をいただいている。

1ヶ月の社会実験では、居住者に事業運営への参加を促すまでにはいかなかったが、来客からの継続を熱望する声が大いなので、3月6日から3ヶ月をめどに2号棟集会所で再オープンした。3ヵ月後には住人たちの自律した継続運営がなされることを祈っている。

まち研事務局(川村)<LET07723@nifty.ne.jp>



# 「市民社会をつくる～震後 KOBE 発アクションプラン」



阪神・淡路大震災からの  
苦闘の6年間で  
市民の眼と手と足で検証した成果

## アクションプランを 一挙公開！！

震災復興市民検証研究会 編著  
(市民社会推進機構発行 1,500 円)

「震後 KOBE 発アクションプラン 市民活動群像と行動計画」という副題のついたこの本の成り立ちが本の内容を決めたといえる。

震災から5周年を前にして兵庫県は震災対策国際総合検証会議を設け、神戸市も震災復興総括・検証研究会をスタートさせた。他の被災自治体も何らかの形で、5年間の取り組みを総括したり、民間の研究者や団体もそれぞれ検証作業に入っていた。

こうした動きは動きとして、本当に被災者の目から見た検証こそが大切なのではないかという気持ちから発足したのが、震災復興市民検証研究会だった。被災者自身はなかなか重い口を開かない、という現実もあって、被災者と近いところでサポート活動を続けてきたボランティアや NPO のメンバーを中心に、被災者の声を代弁しながら復興の過程やこんごの課題を探ろうというのが研究会の目的だった。1年半にわたる実地調査やデータ収集などと、それをめぐる議論をまとめたのがこの「市民社会をつくる」だ。

同研究会は作業を通じていくつかの「発見」をした。そのひとつは「渦巻きヒアリング」と途中で名付けた市民参加型調査だ。まちづくりについてある地

域（A 地域と呼ぶとする）の人たちに事情を聞く。次に別の地域に行くときに、その A 地域の人たちも「一緒に行ってもいいか」と同行する。また次の地域に行くときには今度は2地域の人が同行する といったふうに、ヒアリンググループがどんどん増えてくる。実は復興まちづくりに熱心な人でも、意外と「ヨソ」の話は分からず、そんな機会を待っていたのだ。この渦巻きヒアリングによって、まちづくりの当事者同士が、意見を交換し、経験を深めるという思わぬプラスも生まれたという。

もう一点だけ「発見」例をあげたい。

それは「暮らしと地域の一体化」を目指す発想だ。当たり前といえば、当たり前の言葉なのだが、現実には「暮らし」という言葉から、自らが住んでいる「地域」というイメージが薄れている。同時に「地域」という言葉にも「暮らし」の意味合いが少なくなっている。この両者の一体化を目指すことにより、地域への関心を引き起こし、コミュニティづくりや地域の福祉力につなげていくことが全編に強調されている。

いま議論が盛んな「参画と協働」についても、ずいぶんページが割かれており、現時点ではよく整理された議論となっているのもこの本の特徴だ。

何よりも、本書の力強い点は「市民社会」の先陣をきいていると思われる15の市民団体の活動と志が「新しい市民社会の担い手群像」として見事に描かれていることだ。この種の本にありがちな、机上の理想論にとどまらず、現に生き生きと事業や活動を展開しているグループの元気が浮き彫りになっているのも本書の魅力である。そして「神戸復興塾・神戸まちづくり研究所」も取り上げられていることを付け加えておきたい。

山口一史<VEN15142@nifty.ne.jp>

### 市民社会推進機構とは

「市民社会推進機構(Civic Action Syndicate)」は、自立した市民が自らの責任で21世紀の市民社会を築き、担っていくことを目的にしたネットワークです。『市民社会をつくる - 震後 KOBE 発アクションプラン』の刊行を機に、60項目におよぶアクションプランを実行する組織として設立しました。

震災と復興過程から得たさまざまな教訓を生かして、20世紀後半の私たちの政治、経済、社会と暮らしの仕組みを見直して、新しい市民社会の仕組みを確かなものにしていきたいと願い、会員各位が各地で自主的にアクションプランの実行に取り組んでいかれることを期待しています。

被災地に限らず、全国各地の、自律した市民社会の構築を願う人たちの参加を求めています。詳しくは事務局までお問い合わせください。

**[事務局]市民活動センター神戸** e-mail kiroku@dodirect.com

(3月末まで) Tel 078-265-3511 Fax 078-265-3577 (4月より) Tel 078-367-3336 Fax 078-367-3337

# まち研ニュース 3号

前回の5号以降、兵庫県知事に次いで神戸市長選挙が行われ新市長が誕生した。両首長とも「参画と協働」「市民参画」を旗印に掲げ、参画条例を公約目標にしている。今、その公約をどのように実現するかが注目されているが、まち研は「NPOと神戸市の協働研究会」の事務局を委託され、ワークショップの開催、議事録・報告書の作成などを行っている。また、県とのテーブルである「NPOと行政の協働会議」には、NPO幹事として事務局長が参加している。この二つのテーブルは、新首長になる以前から設置されていたものだが、その後、新施策として出てきたものは、「県民ボランティア活動プラザ」「県民ボランティア基金」にしる、いわゆるNPO色を意識して抑えたものになっているように感じる。行政がNPOを市民の先駆的なモデルと捉えるか、市民の口うるさい一部にすぎないと捉えるか、当面二つの態度の間を行きつ戻りつするのだろう。神戸まちづくり研究所は、当初目的としたコミュニティ・シンクタンクとして、健全な市民社会の実現に向けて提言

を行っていくことが求められているのだろう。

神戸まちづくり研究所が、今年加入した二つの新しいネットワークの設立も、10年と言われた復興を折り返した2001年の象徴的な出来事と言える。「CODE～海外災害援助市民センター」と「HYOGON～ひょうご市民活動協議会」である。CODEは、被災体験を活かして直後の緊急支援ではなく、これまであまり手のつかなかったその後の被災者の自立支援に重点を置いた活動をめざしている。また、HYOGONは、その必要性が言われ始めて足掛け4年の歳月をかけて作られた。活動分野の違い、活動地域の違い等により普段つきあいのない組織が、まずは交流することで、新しい共通のMISSIONを発見したり、助け合ったりできればと設立された。当面は、上述した活動プラザと基金の運営・運用について、行政と協働について話し合うことが急務となった。

野崎隆一<VZD07604@nifty.ne.jp>

## トピックス『小森理事長がひょうごボランティアプラザ所長に就任』

兵庫県は「ひょうごボランティアプラザ」の所長にまち研小森理事長が就任すると発表した。平成9年5月にボランティア活動支援センター基本構想をまとめてから丸5年、開設時期は遅れ面積(470㎡)も縮小されたが、クリスタルタワー(神戸駅前)10階に6月1日開設される。

プラザの事業は以下のとおり。

行政・NPOの交流促進  
ボランティア関連情報の発信・収集  
NPO大学など研修事業  
法律、会計などコンサルティング業務や人材・機器などのマッチング  
活動資金助成  
調査研究業務(地域通貨など)

公設民営の範囲について議論のあった運営については、当面は関係団体・NPO、企業、学識者、行政

などによる運営委員会の意見を求めながら実際の業務は兵庫県社会福祉協議会に委託する。理事長談「突然のお話でいきさつを全然知らないので躊躇したが、行政・民間の両方の経験が役立てばと考え引き受けた。大学は公設民営のプロトタイプだから、プラザの運営についてそれ程心配していない。しかし、成果を性急に求められても困る」。なお、小森理事長はまち研理事を退く。

また、兵庫県はプラザ開設と同時に、100億円という大きな規模の「県民ボランティア活動基金」を創設する。この基金の趣旨は、福祉、環境、国際交流、芸術などの分野で地道に取り組んだり新たな企画に挑戦しようとする団体に幅広く助成しようとするもので、阪神淡路復興基金の助成と合わせて、本年度の助成金額は4億円を見込んでいる。プラザの職員は18名、この種の施設としては神奈川と並んで国内最大級で、お盆と正月以外は年中無休、夜は21時まで開いている。(日曜は17時)

### 特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所・神戸復興塾

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1番6号 TEL: 078-230-8511 FAX: 078-230-8512  
Email = LET07723@nifty.ne.jp Homepage = <http://www.netkobe/machiken/>